

令和4年度

# 岩手県普及活動年報

令和5年8月

岩手県農林水産部農業普及技術課  
農業革新支援担当

## はじめに

本県の農業改良普及事業の実施に際し、農業者、関係機関・団体を始め、多くの方々から御支援並びに御協力をいただき、心から感謝申し上げます。

現在の農業を取り巻く状況に目を向けますと、言うまでもなく農業は国民生活に不可欠な食糧を供給する機能等が求められています。また、農村は農業の持続的な発展の基盤たる役割を果たすことが求められています。一方で、国内全般的に農業・農村は、人口減少に伴う国内市場の縮小や生産者の減少・高齢化等の課題に直面しているほか、世界的な食糧情勢の変化に伴う食糧安全保障上のリスクの高まりや地球温暖化に伴う気象変動への対応のほか、物流業界の2024年問題等の今日的課題への対応も迫られる等、大きなターニングポイントを迎えています。

このような中、本県の農業改良普及事業は、農業者等と直接顔を合わせた活動を展開し、「地域をリードする経営体の育成や新規就農者の確保」、「収益性の高い産地形成」、「農山漁村の活性化」などで成果を上げてきました。

また、「いわて県民計画（2019～2028）」に基づき、令和元年から令和4年度を計画期間とした普及指導計画を策定しました。そして、新たな体制のもとで農業改良普及事業を実施し、「地域農業をけん引する担い手の確保・育成」、「収益力の高い産地づくり」、「革新的な技術開発と導入促進」、「農林水産物の高付加価値化と販路開拓・拡大」、「魅力あふれる農山漁村づくり」等に取り組んできました。

引き続き、意欲ある農業者や集落が希望を持って農業に取り組み、持続的な農業生産や農村地域の発展を実現していくために、現場密着の普及組織が「スペシャリスト機能」、「コーディネート機能」、「総合的な企画運営能力」を発揮し、現場に寄添った普及活動を行うことが重要と考えております。

本書は、実施してきた普及指導活動のうち、令和4年度の主要成果をまとめたものです。参考にしていただければ幸いです。

今後とも、「いわて県民計画」の実現に向けて、「普及指導計画」に基づき、農業者や地域の課題解決に普及組織が一丸となって活動を展開してまいりますので、引き続きの御支援と御協力をよろしく申し上げます。

令和5年8月1日  
農林水産部農業普及技術課  
総括課長 竹澤 利和

# 目 次

◆ 気象経過と農作物の生育概況	
I 令和4年1月から令和4年12月までの気象概況	2
II 農作物の生育概況	8
◆ 普及指導活動の成果	
I 「意欲と能力のある経営体の育成」に対する支援	
米・大豆の低コスト化や園芸作物導入等による	
持続的な集落型農業法人の育成	(革新) 18
経営体のニーズに応じた経営改善支援と経営継承支援の取組	(革新) 20
集落営農組織の組織化・法人化支援	(盛岡) 22
関係機関と連携した新規就農者確保・育成に向けた取組	(八幡平) 24
GAPのステップアップは難しい	(中部) 26
スマート農業技術を活用した水稻品種「銀河のしずく」の 食味・品質及び生産性の向上の実証	(中部) 28
新規就農者の確保・育成に向けた取組	(奥州) 30
一関地域の集落営農組織の法人化について	(一関) 32
個別経営体の法人化支援について	(大船渡) 34
農事組合法人金成なるせ農芸法人設立に向けた支援	(大船渡) 36
これからの担い手確保支援 ～畜産分野における第三者継承～	(宮古) 38
労働力確保に向けたデイワーク等の多様な働き方の導入検討	(久慈) 40
オンラインを活用した新規就農者確保の取組	(久慈) 42
乳牛の生産性向上及び後継牛確保支援	(二戸) 44
II 「収益力の高い産地の形成」に対する支援	
オリジナル品種を核とした県産米の評価向上の取組み	(革新) 46
果菜類における低コスト環境制御技術等の導入効果の検証	(革新) 48
産地を代表するトップモデル事業導入経営体等への集中支援	(革新) 50
果樹の第三者継承に向けて	(革新) 52
りんどう多立茎栽培による収量向上の取組	(革新) 54
広域・地域コントラクターの作業受託面積拡大に向けた課題解決の支援	(革新) 56
県北地域における施設野菜の収益性向上に向けた取組	(革新) 58
GAP認証を取得したモデル産地・経営体の育成	(革新) 60
水稻黄化症状に関する発生要因の検討	(革新) 62
銀河のしずく生産拡大に向けた取組支援	(盛岡) 64
TMR安定供給と良質粗飼料生産の支援	(八幡平) 66
小麦種子生産圃場におけるコムギ条斑病の発生防止に向けた取組	(中部) 68
西和賀町における「銀河のしずく」作付拡大の取組	(中部) 70
遠野地域銀河のしずく栽培研究会活動の支援	(中部) 72

地域を担う中核的肉用牛経営体の育成に向けた取組	（中部）	74
水田活用による加工用ばれいしょ大規模生産経営モデルの育成	（奥州）	76
りんご若手農業者の育成と技術力強化に向けた取組	（奥州）	78
J Aいわて平泉果樹部会担い手班「フルーツちゃんねる」 の活動支援について	（一関）	80
米の低コスト生産に向けた取組及びG A Pの普及・定着にむけた支援活動	（一関）	82
銀河のしずくの収量・品質の向上	（大船渡）	84
ピーマン産地の維持拡大	（大船渡）	86
かきの安定生産に向けた普及指導活動	（大船渡）	88
W C S用稲に係る乾田直播栽培技術の定着	（大船渡）	90
ほうれんそうのミスト装置を活用した加湿制御技術の実証	（久慈）	92
「銀河のしずく」の高品質安定生産に向けて	（二戸）	94
III 「農産物の高付加価値化」及び「農山漁村の活性化」に対する支援		
高校生との交流による食文化伝承の支援	（盛岡）	96
畑わさび作業体験会を通じた地域の魅力発信・就農意欲喚起の取組	（宮古）	98
二戸地方の食文化を次世代に伝えるために	（二戸）	100
IV 「東日本大震災津波からの復旧・復興」に対する支援		
施設園芸経営体における包括的支援体制の確立	（大船渡）	102
◆ 参考資料		
I 令和4年度普及指導活動時間集計		105
II 令和4年度普及関係職員名簿		106
III 令和4年度普及関係公所の所在地及び連絡先		118

## ◆ 気象経過と農作物の生育概況

I 令和4年1月から令和4年12月までの気象概況

II 農作物の生育概況

## I 気象の概況

### 1 年間の気象概況

- 1月は、上旬に低温、12日に暴風雪となった
- 2月は、月降水量が少ない
- 3月は、平均気温が高い
- 4月は、平均気温が高く、日照時間が多かった
- 5月は、日照時間が多い
- 6月は、高温となった
- 7月は、高温、内陸南部と沿岸で降水量が多かった
- 8月は、多雨となった
- 9月は、平均気温が高く、台風14号が横断した
- 10月は、上旬に多雨、寡照、下旬に低温となった
- 11月は、高温となった
- 12月は、平均気温が低い

### 2 旬別の気象概況 ※岩手県の天候のまとめ（盛岡地方気象台作成）より抜粋

#### 〈1月〉：上旬の低温

上旬：平均気温は、内陸と沿岸南部はかなり低く、沿岸北部は低かった。

中旬：平均気温は、内陸で低い所が沿岸北部で高い所があった。降水量は、内陸は平年並から平年より高かった。日照時間は、内陸で少ないからかなり少ない所があった。

下旬：晴れの日が多かった。平均気温は、平年並で、降水量は、かなり少なかった。日照時間は、内陸と沿岸北部は多いからかなり多い所があり、沿岸南部は、かなり多かった。

#### 〈2月〉：月降水量が少ない

上旬：強い寒気の影響で平均気温は低くなった。降水量は、かなり少なかった。日照時間は、沿岸北部でかなり多かった。

中旬：雪や曇りの日が多かった。平均気温は、平年並で、高い所もあった。降水量は、内陸で平年並から少なく、沿岸は平年並で多い所もあった。日照時間は、内陸で多いから平年並、沿岸北部はかなり多く、沿岸南部は少なかった。

下旬：内陸は雪や曇りの日が多く沿岸は晴れの日が多かった。平均気温は、平年並で低い所もあった。降水量は、内陸で多いから平年並、沿岸北部はかなり少なく沿岸南部は少なかった。日照時間は、内陸で少なく、沿岸はかなり多かった。

#### 〈3月〉：平均気温が高い

上旬：晴れる日が多かった。平均気温は、平年並で沿岸は高い所があった。降水量は、沿岸で少なかった。日照時間は、内陸は平年並から多く、沿岸は多くかなり多い所があった。

中旬：雨や雪の降る日が多かった。平均気温は、高かった。降水量は、かなり多かった。日照時間は、かなり少なかった。

下旬：晴れる日が多かった。26日から27日にかけては、大雨となった所があった。平均気温は、高かった。降水量は、内陸は平年並から多く、沿岸北部は少なく、沿岸南部は多かった。日照時間は、内陸は平年並から多く、沿岸は平年並だった。

#### **〈4月〉：平均気温が高く、日照時間が多い**

上旬：雪や雨の降った所があったが、晴れの日が多かった。平均気温は、平年並から高く、かなり高い所もあった。降水量は、少なく、北部を中心にかなり少ない所もあった。日照時間は、かなり多かった。

中旬：晴れる日が多かった。11日は沿岸で最高気温が30度を超え真夏日となった所があった。平均気温は、平年並から高く、かなり高い所もあった。降水量は、平年並か少なかった。日照時間は、平年並から多く、内陸でかなり多い所があった。

下旬：天気は周期的に変わった。29日は低気圧の影響で雨となり、夜には山沿いを中心に雪となった。平均気温は、平年並から高く、かなり高い所もあった。降水量は、平年並から多く、かなり多い所があった。日照時間は、北部は多かった。

#### **〈5月〉：日照時間が多い**

上旬：晴れる日が多かった。平均気温は、内陸は平年並から低く、沿岸は平年並から高かった。降水量は、平年並から少なかった。日照時間は、平年よりかなり多かった。

中旬：概ね晴れた。平均気温は、概ね高い又はかなり高かった。降水量は、少ない又はかなり少なかった。日照時間は、多く、内陸の南部と沿岸南部は平年並だった。

下旬：天気は周期的に変わり、27日は、県南部を中心に大雨となった。平均気温は、平年並みから高かった。降水量は、内陸は多く、かなり多い所があった。沿岸北部は平年並から多く、沿岸南部は多かった。日照時間は、平年並で多い所もあった。

#### **〈6月〉：高温となった**

上旬：曇りや雨の日が多かった。平均気温は、かなり低く、沿岸で低い所があった。降水量は、多いからかなり多かった。日照時間は、平年より少なく、南部でかなり少ない所があった。

中旬：曇りや雨の日が多かった。11日は、盛岡市南部付近で1時間に約100ミリの猛烈な雨が解析された。平均気温は、概ね平年並。降水量は、少ないからかなり少なかった。日照時間は、平年並から多く、沿岸南部でかなり多い所があった。

下旬：曇りや雨の日が多かった。24日は、葛根田で84.0ミリ、好摩、滝沢、雫石、沢内で30ミリ以上の日降水量を観測した。平均気温は、平年よりかなり高かった。降水量は、内陸は少ないから平年並、沿岸は、平年並から少なく、かなり少ない所もあった。日照時間は、平年並から多く、少ない所もあった。

#### **〈7月〉：高温、内陸南部と沿岸で降水量が多かった**

上旬：前線や台風第4号から変わった低気圧などの影響により曇りや雨の日が多かった。平均気温は、高いからかなり高かった。降水量は、平年並から多く、内陸南部で少ないからかなり少なく、沿岸北部でかなり多い所があった。日照時間は、内陸南部でかなり多く、北部は多いから平年並となった。

中旬：曇りや雨の日が多かった。特に16日は、県南部や沿岸で日降水量が100ミリ以上の雨が降った所があった。平均気温は平年並から高かった。降水量は、内陸南部と沿岸でかなり多い所があった。日照時間は、概ね少なかった。かなり多かった。

下旬：曇りや雨の日が多く、後半は晴れる日が多かった。22日は、沿岸南部を中心に大雨となった。平均気温は、内陸南部と沿岸南部はおおむね高かった。降水量は、平年並から多く、北部で少ない所があった。日照時間は、平年並から多かった。

## **〈8月〉：多雨となった**

上旬：曇りや雨の日が多かった。特に、3日は県北部で100ミリを超える大雨となった。平均気温は、概ね平年並。降水量は、県北部はかなり多く、県南部は多かった。日照時間は、かなり少なく、沿岸を中心に少ない所があった。

中旬：雨や曇りの日が多く、内陸を中心に日降水量が50ミリを超える大雨になる日が多かった。平均気温は、概ね平年並。降水量は、多く、内陸でかなり多かった。日照時間は、少なかった。

下旬：前半は晴れの日が多く、中頃から曇りや雨となる日が多かった。平均気温は、内陸は概ね低く、沿岸は概ね平年並。降水量は、平年並みから多かった。日照時間は、平年並から少なかった。

## **〈9月〉：平均気温が高く、台風14号が横断した**

上旬：曇りや雨の日が多かった。平均気温は、概ね平年並。降水量は、概ね平年並。日照時間は、少なく、北部で平年並、南東部でかなり少ない所があった。

中旬：晴れの日が多かったが、期間の終わりは台風14号の影響で雨の日があった。平均気温は、かなり高い。降水量は、少ないから平年並。日照時間は、北部で多く、南部で平年並から多い。

下旬：晴れの日が多かった。平均気温は、平年並から高かった。降水量は、内陸中心に多かった。

## **〈10月〉：上旬に多雨、寡照、下旬に低温となった**

上旬：前半を中心に晴れる日が多く、中頃から曇りや雨の日が多かった。平均気温は、概ね低いから平年並。降水量は、多く、内陸部を中心に平年並の所があった。日照時間は、少なかった。

中旬：晴れや曇りとなる日が多かった。平均気温は平年並から高かった。降水量は少なく、内陸北部で平年並の所、南部でかなり少ない所があった。日照時間は平年並、内陸で少ない所があった。

下旬：晴れの日が多かった。平均気温は、内陸は低いからかなり低い。沿岸は平年並から低い。降水量は、少ないからかなり少なく、沿岸北部で概ね平年並だった。日照時間は、平年並から多く、南部でかなり多い所、沿岸部で少ない所があった。

## **〈11月〉：高温となった**

上旬：晴れる日が多かった。平均気温は、概ね平年並から低く、降水量は、少ないからかなり少なく、北部は概ね平年並だった。日照時間は、平年並から少なく、北部や南部で多い所があった。

中旬：晴れや曇りとなる日が多かった。平均気温は、平年並から高かった。降水量は、少ないからかなり少なかったが、内陸北部では平年並の所があった。日照時間は、多いからかなり多かった。

下旬：天気は短い周期で変わった。平均気温は、かなり高く、降水量は概ね多かった。日照時間は、内陸は多いからかなり多く、沿岸は少ないから平年並だった。

## **〈12月〉：平均気温が低い**

上旬：内陸の山沿いを中心に雪や雨の日が多かった。平均気温は、平年並から低く、北部でかなり低い所があった。降水量は、平年並から少なく、北部で多い所があった。日照時間は、平年並から少なく、かなり少ない所があった。

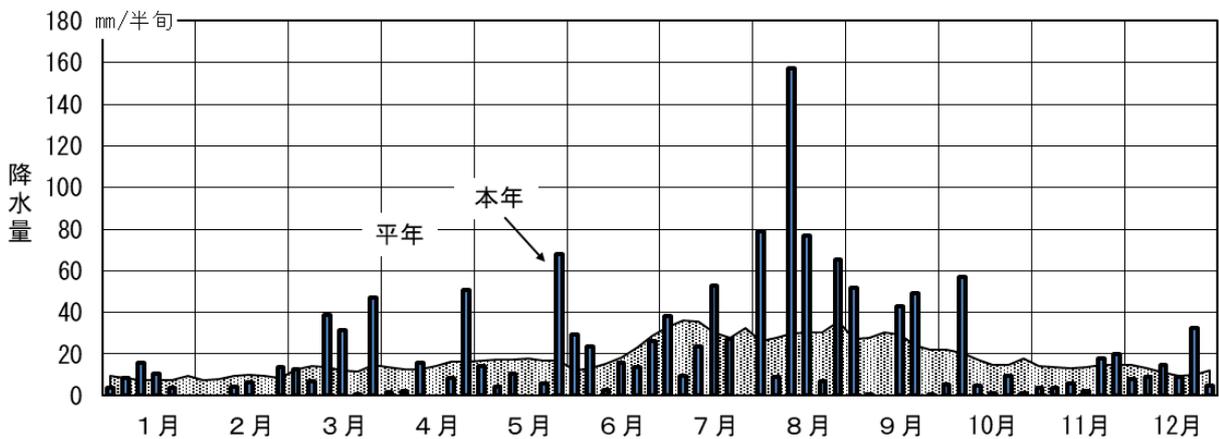
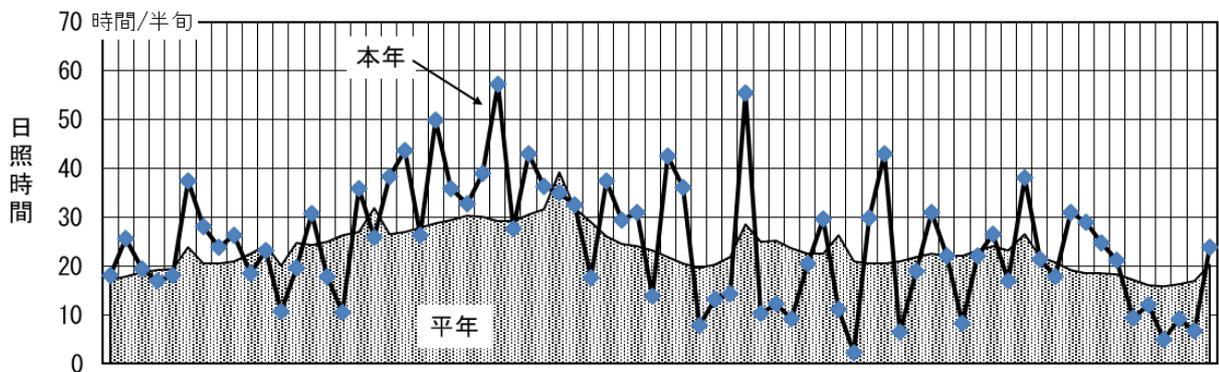
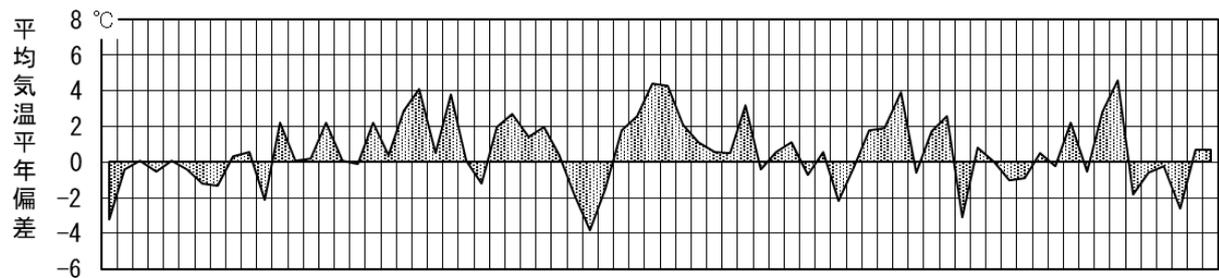
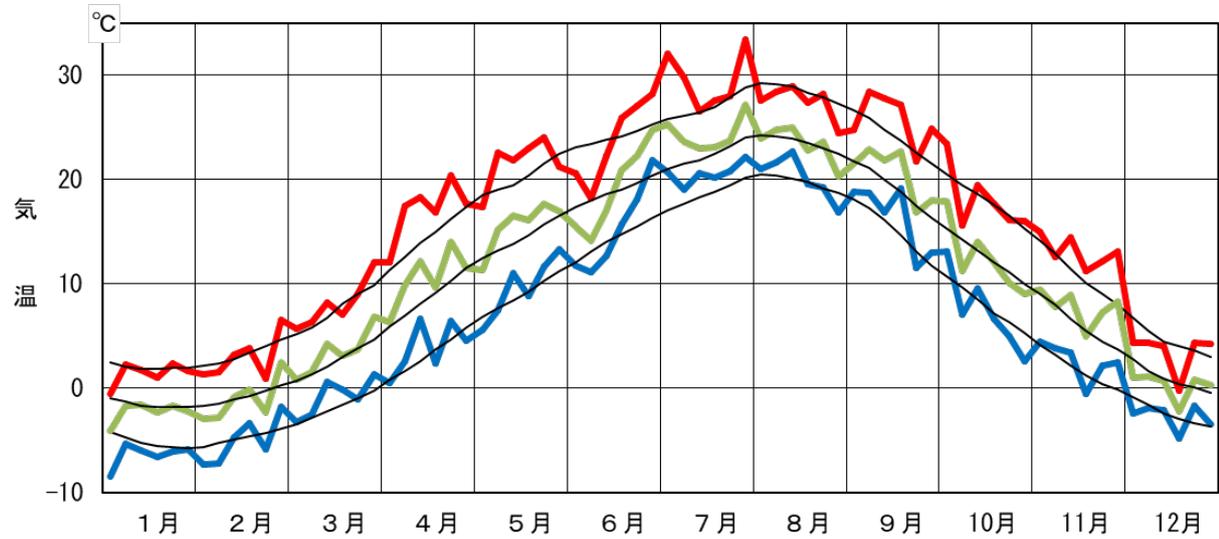
中旬：初めは晴れや曇りの所もあったが、13日と17日に寒冷前線や低気圧が通過し、冬型の気圧配置が強まったため、雪や曇りの日が多く、気温が低く、内陸を中心に積雪が多くなった。平均気温は、概ね低かった。降水量は、内陸は多いからかなり多く、沿岸は少なかった。日照時間は、少ないからかなり少なく、沿岸で平年並みの所もあった。

下旬：沿岸では晴れの日が多かった。平均気温は、内陸は平年並から平年より高かった。沿岸北部は平年よりかなり高く、沿岸南部は平年より高かった。降水量は、多く、内陸で平年並みの所があった。日照時間は、内陸は平年並から少なく、沿岸は平年並から多かった。

### 3 主な気象データ

#### (1) 盛岡における気温、降水量、日照時間

2022年の気象経過[旬別：盛岡地方気象台]



(2) 梅雨入り、梅雨明け（東北北部）

	月 日	平 年 (平年差)	昨 年 (昨年差)
梅雨入り	6月15日頃	6月15日頃 ( - )	6月19日頃 (4日早い)
梅雨明け	7月26日頃	7月28日頃 ( 2日早い )	7月16日頃 ( 10日遅い )

(3) 気象官署（盛岡、宮古、大船渡）における記録更新（第5位まで）

ア 月平均気温

気象官署	月	記録 (°C)	備 考
盛岡	4	10.6	高い方から3位
宮古	4	10.3	高い方から4位
大船渡	4	10.8	高い方から5位
盛岡	5	15.7	高い方から5位
宮古	5	15.1	高い方から5位
盛岡	7	24.4	高い方から5位
大船渡	7	23.6	高い方から3位
盛岡	11	7.8	高い方から4位
大船渡	11	10.3	高い方から3位

イ 日最高気温

気象官署	月 日	記録 (°C)	備 考
宮古	4月11日	31.0	高い方から2位
大船渡	4月11日	29.3	高い方から2位
大船渡	6月25日	33.7	高い方から3位
大船渡	6月26日	34.5	高い方から1位
大船渡	6月29日	34.3	高い方から2位
宮古	6月25日	34.1	高い方から4位
宮古	6月26日	34.7	高い方から2位
大船渡	7月31日	35.8	高い方から1位
盛岡	10月1日	27.2	高い方から5位

ウ 日最低気温

気象官署	月 日	記録 (°C)	備 考
盛岡	6月27日	21.3	高い方から3位
盛岡	6月28日	21.2	高い方から5位
盛岡	6月29日	23.2	高い方から2位
盛岡	6月30日	23.2	高い方から1位
宮古	6月25日	22.2	高い方から3位
宮古	6月27日	22.5	高い方から2位
宮古	6月29日	24.4	高い方から1位
大船渡	6月26日	22.6	高い方から2位

大船渡	6月27日	22.3	高い方から3位
大船渡	6月28日	21.6	高い方から5位
大船渡	6月29日	22.6	高い方から1位
宮古	9月19日	24.6	高い方から3位
盛岡	10月3日	17.6	高い方から5位

エ 月間日照時間

気象官署	月	記録(時間)	備考
盛岡	5	238.3	多い方から3位
盛岡	12	66.0	少ない方から1位

オ 月降水量

気象官署	月	記録(mm)	備考
大船渡	7	379.0	多い方から4位
盛岡	8	395.0	多い方から2位

カ 日降水量

気象官署	月日	記録(mm)	備考
—	—	—	—

キ 日最大1時間降水量

気象官署	月日	記録(mm)	備考
盛岡	5月27日	19.0	多い方から3位
盛岡	7月5日	36.0	多い方から3位
大船渡	7月16日	47.5	多い方から4位

ク 月最大24時間降水量

気象官署	月日	記録(mm)	備考
大船渡	7月16日	143.5	多い方から4位

ケ 日最大風速・風向

気象官署	月日	記録(m/s)	備考
大船渡	2月27日	15.4(北西)	大きい方から4位
大船渡	3月15日	15.3(北西)	大きい方から2位
大船渡	5月8日	11.9(北西)	大きい方から4位
大船渡	5月14日	12.5(北北西)	大きい方から3位
大船渡	12月22日	14.4(北北西)	大きい方から4位

## II 農作物の生育概況

### 1 水稲

#### (1) 播種期～育苗期・・・播種盛期は平年並の4月16日、苗質は平年に比べ良好

県全体の播種盛期（50％）は平年並の4月16日頃となった。育苗前半の4月第2～第3半旬及び第5半旬の気温が高く推移し、一部第1葉鞘長が長くなる傾向がみられたものの、移植苗の草丈は概ね平年並み、乾物重は東部で平年並み、その他地域は平年より大きく、総じて充実度の高い苗となった。育苗前半の高温の影響で、細菌病類の発生施設率は39.4％（平年24.3％）と平年より高かったが、発生箱率は0.17％（平年0.39％）で平年よりやや低かった（病害虫発生現況情報）。

##### 【現地の指導対応】

4月の高温の予報を踏まえ、細菌病対策の温度管理を呼び掛けた（4/8病害虫防除速報）。

#### (2) 移植期～分けつ期・・・移植盛期は平年並み、6月上旬の低温により初期生育に遅れ

県内の移植盛期は平年並みの5月17日で概ね適期内に田植えが終了し、活着も良好であった。活着後の6月前半は気温が低く、日照時間も平年を下回ったことから、初期生育に遅れがみられ、6月15日現在の生育は、県全体で草丈28.6cm（平年差-1.8cm）、茎数198本/m<sup>2</sup>（平年比75％）、葉数6.5葉と平年より0.2葉少なかった。続く6月第4半旬・第5半旬は気温・日照時間も平年を上回って経過したことから、6月下旬の茎数は平年比87％まで回復し、目標穂数の8割程度確保された。また、6月下旬の土壌中アンモニア態窒素含量は平年並みで、茎葉窒素濃度は平年に比べ0.2pt高かったものの、乾物重は平年比71％と小さく、稲体窒素吸収量は平年比79％と少なかった。なお、東北北部の梅雨入りは6月6日頃であり、平年に比べ9日早かった。

##### 【現地の指導対応】

5～6月の技術情報や指導会において、初期生育確保のための管理を重点的に指導したほか、農研センターの前年の解析結果を踏まえ、倒伏防止のため、中干しを6月25日頃までに開始（目標穂数の8～9割の茎数が確保されたら実施）する対策を周知した。なお、実際の中干し実施時期はほぼ平年並みの6月29日～7月13日頃であったが、中干しを見送る地域や農家もあり、7月上旬の降雨で十分乾かない圃場も散見された。

#### (3) 幼穂形成期から減数分裂期まで・・・草丈かなり長く、茎数やや少ない

幼穂形成期は7月11日頃で平年並み、減数分裂期は同25日頃で、平年より2日遅かった。6月下旬から7月上旬にかけて気温が高く経過したことから、7月11日の生育診断予察圃における草丈は平年を10cm上回り、茎数も平年の85～95％程度まで回復した。幼穂形成期の稲体窒素濃度は平年を0.2pt下回ったが、乾物重は平年比112％と上回り、窒素吸収量は同102％とほぼ平年並みであった。地帯別では北部、品種別ではあきたこまち・いわてっこ・金色の風で窒素吸収量が平年を下回ったが、概ね診断基準の好適範囲であった。東北北部の梅雨明けは特定されなかった。

##### 【現地の指導対応】

追肥方針は幼穂形成期（「金色の風」は減数分裂期）重点で、窒素成分1～1.5kg/10a内で加減し、低温時は追肥量を減らすか見送り、肥効調節型肥料の場合は追肥しない対応とした。なお、各地域の追肥指導は北上川上流・東部でN成分1～2kg/10a、北上川下流・北部は1～1.5kg/10aの対応が多かった（7/4第1回稲作技術対策会議）。なお、実際の追肥については①一発肥料の普及が進んだこと、②草丈が長く葉色値も十分低下しなかったこと等から、実施した農家は少なかった。

#### (4) 出穂期～成熟期・・・出穂期は平年並み、日照不足の影響で登熟に遅れ

県全体の出穂盛期（50％）は平年並の8月5日となった。地域別では北部で2日早く、その他地域は1日遅く、特に6月上旬の生育停滞が目立った県南では出穂揃いが劣る傾向もみられた。登熟

は、8月前半の日照不足に加え、8月後半は内陸部を中心に気温が低い日が続いたことから遅れが顕著であった。成熟期は県平均で平年より4日遅い9月21日頃となったが、遅れ穂や弱勢籾の登熟が遅く、刈取り適期判断の難しい圃場も散見された。

成熟期形質は、県平均で稈長88.0cm(平年+6.1cm)、穂長18.7cm(平年+0.4cm)、穂数428本/m<sup>2</sup>(平年差94%)となった。稈長が長く、また、中干しが十分でない圃場が多かったことに加え、8月の雨の影響で圃場が乾きにくかったことから、「ひとめぼれ」「あきたこまち」等を中心に倒伏する圃場がみられた。

#### 【現地の指導対応】

出穂の早晚差やバラつきが大きく、日照不足による登熟停滞もみられたことから、観察による刈取り判断(黄化籾+テスト摺)の指導を重点的に実施した(9/上中旬刈取り指導会、8/25県技術情報第6号・9/8刈取適期の見通しと対策、9/30・10/15報道発表他)。刈取り盛期(50%)は、県全体で10月5日頃(平年+2日)となったが、遅れ穂や登熟ムラが見られたことから、完熟を待った結果刈り遅れる地域や農家もみられた。

#### (5) 収量及び収量構成要素・・・作況指数99

農林水産省が公表した本県の令和3年産水稻の作況指数は「99」となった[R4.12.9東北農政局「令和4年産水稻の収穫量(東北)」]。生育診断予察圃の精玄米重(ふるい目1.90mm)は、県平均で平年比99%となった。穂数はやや少なく(平年差94%)、1穂籾数はやや多く(同110%)、総籾数やや少~並(同99%)、登熟歩合は東部・北部沿岸でやや高いが(平年差+2.9~3.5pt)、北上川下流でやや低くなった(同-5.0pt)。

#### (6) 品質・・・うるち玄米の1等米比率96.7%(令和4年10月31日現在)

令和4年産のうるち玄米1等米比率は96.7%となっており、2等以下の主な格付け理由は着色粒47.0%、形質25.2%、整粒不足16.7%[令和4年産米の農産物検査結果(速報値,R4.11.30公表)]。生育診断予察圃の玄米品質は、整粒歩合は概ね平年並で農産物検査も1等格付けが多くなったが、「ひとめぼれ」「金色の風」「いわてっこ」では、出穂のバラつきや登熟期の日照不足・倒伏の影響などから、未熟粒で2等格付けとなるものもみられた。

#### (7) 病害虫

##### ア いもち病

葉いもちの発生量は「並」であったが、県南部では6月第4半旬から感染好適条件の繰り返しがあり、北上市以南を中心に上位3葉の葉いもち発生が多かった。これに加え、出穂揃いのバラつきや8月の長雨・日照不足の影響も重なり、穂いもちの発生量は「多」となった。

##### イ 斑点米カメムシ

4月から5月の高温により越冬世代の発生時期は「やや早」となり、続く第1世代は「早」、第2世代も「やや早」であった。発生量は、第1世代の発生盛期がかなり早まったため、7月の発生が平年より多かった。出穂期から登熟前半の8月は降雨が多く発生量は平年並となったが、9月に入り気温が高く経過し、9月中旬の発生量は「やや多」となった。斑点米の発生量は「並」で、割れ籾が少なかったことから、加害部位は頂部主体であった。

#### 【現地の指導対応】

葉いもちについては、県南部で発生が早く、拡大の兆候もみられたことから、葉いもちの早期発見と防除、穂いもち防除の適期実施を呼び掛けた(7/20注意報第5号)。

斑点米カメムシ類の発生が早く、7月上旬の発生量も多かったことから、出穂10~15日前までの草刈り徹底を呼び掛けた(7/14予察情報注意報第4号)。薬剤防除は8月の降雨の影響により、適期に実施できなかった事例が昨年より多かった(12/19病害虫防除実績検討会)。

## 2 畑作物

### (1) 小麦

#### 【令和4年産小麦（令和3年播種）】

##### ア 播種～初期生育

播種作業は連作圃場を中心に9月中旬頃より始まり、播種作業は天候に恵まれたため順調に行われた。適期に播種された圃場では概ね平年並みの生育となり、越冬前に生育量を確保することができた。一方、11月の降水量が多かったことから、播種が遅れた水田転換畑を中心に湿害が発生した圃場がみられた。

##### イ 越冬後の生育

根雪期間は県北部（軽米）では74日（平年差+5日）、県南部（北上）では81日（平年差+3日）と、平年より長くなった。

2月下旬から気温が概ね平年並みで経過したことから、3月中旬ごろに融雪し、条件が整ったところから、積極的に融雪期追肥や麦踏みが実施された。

ナンブコムギの縞萎縮病は、11月の気温が高めであったことなどから、平年並みの発生となった。

##### ウ 茎立～出穂・開花

幼穂形成期は平年並みの4月10日前後に達し、その後の気温は平年並みから高めに経過したことから生育は順調であった。

出穂期及び開花期は平年並みとなり、穂揃期追肥や赤かび病の薬剤防除作業は概ね適期に実施された。

##### エ 登熟・刈り取り状況

6月上旬に低温で経過したことから登熟がやや緩慢となったが、7月上旬に好天が続いたことから水分低下が進み、収穫作業は例年より早く（昨年産と同様）終了した。

#### 成熟期調査結果（農研センター作況調査より）

- ・出穂 ゆきちから・ナンブコムギとも平年並み
- ・成熟 ゆきちからは平年並み、ナンブコムギは平年より2日早い
- ・稈長 ゆきちからは平年並み、ナンブコムギは平年より長い
- ・穂長 ゆきちからは平年より短く、ナンブコムギは平年並み
- ・穂数 ゆきちから、ナンブコムギとも平年より少ない

##### オ 収穫量及び検査結果

農林水産省発表による令和4年産県平均単収は、平均収量対比（直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）117の240kg/10aとなった（令和3年産211kg/10a・対比107、令和2年産220kg/10a・対比114、令和元年産239kg/10a・対比131）。

令和4年産麦類の検査結果（令和4年11月末現在）は、検査数量が8,840t（令和3年産7,464t、令和2年産7,833t、令和元年産9,619t）、一等比率が94.2%（令和3年産93.0%、令和2年産75.0%、令和元年産93.6%）となった。

##### カ 病害の発生（病虫害防除所調査結果より）

（ア）雪腐病：発生圃場率は平年並みとなった。地域別では、県北部で発生程度中以上の圃場率が50%と平年より高かった。

（イ）縞萎縮病、萎縮病：発生圃場率は平年並みであった。ナンブコムギで発生圃場率が高く、作付け2年以上の圃場では発生程度中以上の発生圃場率が高かった。

（ウ）赤かび病：6月中旬の巡回調査では、発生圃場率が平年より高かったものの、程度中以上（発病穂率40%以上）の圃場は確認されなかった。地域別では、県南部で発生圃場率が高かった。

## 【令和5年産小麦（令和4年播種）】

播種作業は連作圃場を中心に9月中旬頃から始まった。水稻収穫後の圃場では、水稻の刈取りが遅れた影響でやや播種が遅れたものの、播種後は好天が続いたことから生育は全般に良好で、越冬前に生育量を確保することができた。

12月中旬から根雪となり、根雪期間は県北部（県北農業研究所：軽米）では平年より長い84日（平年70日）、県南部（農業研究センター：北上）では平年並みの75日（平年79日）であった。

## （2）大豆

### ア 播種～出芽期

5月下旬から6月上旬にかけての降雨により播種作業が遅れ、播種作業が6月下旬まで続くところがみられた。

### イ 子葉展開期～本葉展開期

全般に出芽・初期生育は順調に経過したが、5月下旬に播種した県北部では、6月上旬の低温の影響により、生育の遅れがみられた。

6月下旬から7月上旬にかけての高温・多照により、生育は順調となった。一方、7月中旬の降雨により滞水したほ場で湿害がみられたほか、全般に除草剤散布や中耕・培土作業が遅れた。

また、播種時期が遅れた圃場等では全般に生育が小さめとなった。

### ウ 開花期

開花期は、県北部では概ね平年並みの7月末から8月初めに達し、県南部では平年より3日程度早い7月末に達した。

### エ 莢伸長期～莢肥大期

8月は低温・寡照で経過したほか、降雨が続いたことから生育、登熟は緩慢となり、9月上旬の最繁期における生育は概ね平年並みとなったほか、生育が旺盛な圃場では、開花期以降に倒伏が発生した。

また、7月中旬以降の相次ぐ大雨により滞水し、全般に生育が停滞し、葉色が薄い圃場がみられた。

### オ 黄変期～成熟期、収穫期

9月は気温が高めで日照も平年並みであったことなどから登熟は順調に進み、概ね成熟期は平年並みの10月中旬に達した。

10月下旬以降、全般に好天が続いたことから収穫作業は順調に進み、11月下旬に終了した。

### カ 諸障害の発生状況

（ア）紫斑病：発生量は平年並み。

（イ）べと病：感受性の高いシュウリユウを中心に発生し、全県的にはやや多かった。

（ウ）茎疫病：連作圃場を中心に発生がみられた。

（エ）黒根腐病：連作圃場を中心に発生がみられた。

（オ）ダイズシストセンチュウ：シストセンチュウ抵抗性「弱」の品種を作付けしたほ場で発生がみられた。

（カ）マメシンクイガ：発生量は平年並み。

（キ）吸汁性カメムシ類：発生量は平年より多かった。

（ク）雑草害：播種時の土壌処理剤はほとんどの圃場で適期に実施されている。7月中下旬の相次ぐ大雨により、中耕・培土や茎葉処理除草剤散布が遅れ、十分防除できなかったことにより、雑草発生が目立つ圃場がみられた。

### キ 収量及び品質

農林水産省発表による令和4年度県産平均単収は、平均収量対比（直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）85の10aあたり121kgとなった。（令和3年産147kg、令和2年産131kg、令和元年産147kg）

令和4年産大豆（普通大豆）の検査結果（令和5年1月31日現在）は、検査数量が3,770t（令和3年産4,423t、令和2年産3,360t、令和元年産3,125t）、一等比率は53.6%であった（令和3年産46.9%、令和2年産49.5%、令和元年産58.4%）。

### 3 野菜

#### (1) きゅうり

露地普通作型では、定植直後の強風、6月上中旬の低温により、初期生育は停滞傾向であった。その後、気温の上昇とともに生育は回復し、7月下旬～8月中旬に収穫ピークを向えたものの、8月の曇雨天による日照不足や炭疽病等の病害の蔓延により、側枝の発生が弱く、例年より低い収穫量で推移した。9月以降は8月の低日射量に起因する成り疲れの影響により、果実品質の低下を招いた。

病害虫では、6月～7月にかけて、平年より炭疽病、褐斑病の発生が早く、成り疲れ症状の遠因と考えられた。また、生育後半には、アザミウマ類、ハダニ類の発生が多い圃場が散見された。

近年、発生が増加しているフケ果に関しては、JAいわて中央、JA新しいわてを中心に鮮度保持フィルム（FHフィルム）の導入が進んだこともあり、発生は少なく推移した。

#### (2) トマト

雨よけ作型では、6月上中旬の低温により、低段の果実の着色が進まず、生育初期から草勢低下傾向で推移した。その後、気温の上昇とともに、果実の着色が進み、8月上中旬に出荷のピークを向えたものの、7月の高温による落花、8月の曇雨天による日照不足により、出荷量は平年より早い8月下旬から減少傾向に転じた。

病害虫では、6月中旬以降から葉先枯れから感染した灰色かび病の被害が発生し、7月からは灰色かび病に加え、うどんこ病、すすかび病の発生が散見された。さらに、8月が曇雨天傾向であったため、灰色かび病、うどんこ病、すすかび病が蔓延した。土壌病害では、奥州管内を中心に青枯病、二戸管内を中心にかいよう病が発生した。

#### (3) ピーマン

雨よけ作型では平年並みの4月上旬より定植が行われ、概ね順調な活着で、その後の生育も概ね順調であった。収穫初期から尻腐果の発生が見られる地域もあったが、平年並みの5月下旬頃から収穫が開始された。6月は低温の影響により収穫量は少なかった。その後の天候回復により収穫量は増えたが、7月中旬にかけて尻腐果の発生が増加した。8月は日照不足となったことで草勢が弱まり、変形果やヒビ果などの障害果の発生が増えた。9月以降はほぼ順調な生育であったが、赤果等の発生が目立った。全体として収穫量は平年並みからやや少なめであった。

露地作型では平年並みの4月下旬からトンネル栽培、5月下旬から露地栽培の定植が行われた。しかし、5月下旬から6月中旬にかけての低温の影響により活着が遅れた。6月下旬から7月上旬の高温により生育はやや回復したが、平年よりはやや遅れた収穫開始となり、尻腐果の発生も多かった。7月下旬から8月は、降雨が多く日照も少なかったため収穫量は少なく、尻腐果等の障害果の発生が継続した。9月は高めの気温により順調な生育、収穫となった。

病害では、露地作型で斑点病が7月中旬頃から発生し、9月以降に平年より多く発生した地域もあった。その他、降雨の多い時期を中心に灰色かび病、斑点細菌病の発生がみられた。

虫害では、アザミウマ類、アブラムシ類の発生が5月～9月にみられた。タバコガ類が7月下旬から9月に発生した。

#### (4) ほうれんそう

雨よけ栽培では、例年並みの3月上旬から播種が始まり、概ね順調な生育となった。7月には高温、強日射による生育停滞や高温障害による枯死、葉先枯れ等の生理障害が見られる時期があったが、7月下旬と8月上旬に大雨があり、一部ではハウス内への浸水により湿害の発生が見られ、8月以降は日照不足により軟弱徒長ぎみの生育となった。全体的に少なめの出荷量であった。

病害は、べと病は少なかったが、高温期に萎凋病等の立枯性病害が広く発生した。

害虫は、4月～6月と9月～10月にハウレンソウケナゴコナダニの被害がみられた。6月からはアザミウマ類、アブラムシ類の被害がみられ、7月からはヨトウムシ、8月からはシロオビノメイガの被害が確認された。

#### (5) ねぎ

早い作型では3月下旬から定植が開始され、秋冬期どり作型の6月中旬まで定植が続いた。乾燥、低温による一時的な生育停滞はあったものの、比較的順調に生育が続き、3月定植作型では7月中旬より出荷が開始された。その後は降雨が継続したため、土寄せや収穫作業の遅れが生じた。この期間は軟腐病等の腐敗性病害の発生も多く、収量や品質が低下した。9月以降は収穫量も増加し品質的にも回復した。

病害虫では、7月下旬から9月上旬に軟腐病、褐色腐敗病の発生が平年より多く発生した。その他、べと病が6月下旬頃、葉枯病、黒斑病が7月中旬から9月、アザミウマ類が6月から9月に発生した。

#### (6) キャベツ

高冷地キャベツの定植開始は、例年並みの4月下旬となった。5月には低温による生育停滞が見られたが、6月の気温上昇により回復し、出荷開始は例年並みの6月下旬となった。7月以降は日照不足、長雨の影響により緩慢な生育となり、結球内部の腐敗症状が多発した他、8月上中旬の大雨により土砂流入、湿害等の被害が発生し、出荷量は少なくなった。

病害は、長雨の影響により圃場が軟化し、防除機械が入ることができない状況が続いたため、7月と10月にべと病、8月には株腐病、黒腐病、軟腐病、9月には黒斑細菌病の発生が多くみられた。

害虫は、5月から6月にコナガ、タマナギンウワバ、ヨトウムシの発生がやや多くなったが、その後は降雨等の影響により例年より発生が少ない傾向となった。

#### (7) レタス

高冷地レタスの定植開始は、例年より1週間程度早まった。その後は低温によりやや緩慢な生育となったが、結球レタスの出荷開始は例年よりやや早い5月下旬となった。7月以降は日照不足、長雨の影響により緩慢な生育となった他、8月上中旬の大雨により土砂流入、湿害等の被害が発生し、出荷量は少なくなった。

病害は、6月に菌核病、すそ枯れ病、灰色かび病の発生がみられた。7月以降は、長雨の影響により圃場が軟化し、防除機械が入ることができない状況が続いたため、腐敗病、軟腐病、斑点細菌病が多発し、秋まで発生が続いた。

害虫は、6月にナモグリバエ、ヨトウムシの発生がみられた。

### 4 花き

#### (1) りんどう

##### ア 生育期

3月から4月にかけて平年よりやや高温で推移したことで、萌芽期は平年並みとなり初期生育は進んだ。5月下旬から6月上旬にかけて低温となり生育の停滞みられ、側芽発生期は平年より遅れた。また、一部の地域では、5月下旬の降雹による被害が発生した。

その後、気温が平年より高く経過し、生育は一時回復したが、7月中旬以降、曇天や降雨が多く生育に遅れがみられた。8月上旬には県北部を中心に豪雨となり、圃場の冠水等の被害が発生した。8月中旬以降、平年並みからやや高い気温となったが、高温により生育遅延はなく経過した。

生育期間中に降雨が多く、草丈は総じて伸びる傾向にあった。

##### イ 開花期

品種全般に平年より開花が遅れ、前年に比べ大幅に遅れた。極早生種では県内地域で6月下旬から出荷開始となった。早生種では、平年より開花が遅れたことで、盆需要期に開花が間に合わない地域も見られ、切り前を固切りに変更する出荷対応が実施された。晩生種の開花は、平年よりやや遅れがみられたが、概ね彼岸需要期に開花となった。

##### ウ 病害虫

病害では、葉枯病、黒斑病、褐斑病の発生が多かった。8月以降、降雨が増えたことから発生が増加し、9月以降も発生が続いた。害虫では、春先の高温傾向により lindouhosohamaki の越冬成虫の羽化は平年より早まったが、平年並みの発生となった。また、ハダニ類やアザミウマ類は平年並みの発生となった。

## (2) 小ぎく

### ア 育苗・定植期

1月から2月にかけて気温が平年並みからやや低く推移したため、採穂用親株の生育にやや遅れがみられた。8月咲品種の挿し芽は、平年並みからやや遅い時期となった。挿し芽後に気温は高く経過したことで、定植は概ね平年どおり4月下旬から5月上旬となった。県南部では、定植後に降雪があり茎折れ等の被害が発生した。9月咲品種は、挿し芽、定植とも概ね平年どおりの時期となった。

### イ 生育期・開花期

8月咲品種の生育は、5月下旬から6月上旬の低温や7月上旬の猛暑等の影響で、発蕾や蕾の生育に遅れがみられた。7月中旬以降も曇天、降雨が多く、生育の遅れは回復せず、8月咲品種の開花は、平年より大幅に遅れ、盆需要期後に開花となる品種も多くみられた。草丈の伸長は良好であった。一方、9月咲品種の生育は、8月以降の気温低下等により順調に進み、概ね彼岸需要期の開花となった。一部の品種で柳芽や草姿の乱れの発生がみられた。

### ウ 病害虫

病害では、白さび病やべと病が親株や育苗期から発生した。一部地域では、べと病の発生が多く本畑での発生もみられた。白さび病は、7月以降増加し、中位葉まで発生する圃場もあった。

害虫では、県内で初めてクロゲハナアザミウマの発生が確認された。6月からアブラムシ類、7月から9月にかけてオオタバコガ、ハダニ類、アザミウマ類の発生が多くみられた。

## 5 果樹

### (1) りんご

#### ア 花芽の状況

令和4年産りんごの花芽率は「ジョナゴールド」、「ふじ」ともに平年より高く、前年（令和3年産）と比較すると、「ジョナゴールド」はやや高く、「ふじ」は平年より低くなった。また、弱小花芽率は、両品種とも平年・前年より高くなった。

#### イ 発芽期～展葉期

3月の気温がやや高めに推移したものの「ふじ」の発芽は概ね平年並みとなった。一方、4月の気温が高めに推移したため、展葉は平年より5日早かった。なお、3月が記録的な高温となった前年と比較すると発芽、展葉とも7日遅かった。寒気や放射冷却現象により4月17日、20日に一部地域に降霜が認められたが、前年のような県全域に及ぶ被害は認められなかった。

#### ウ 開花期

「ふじ」の開花始期は、平年より7日早く、ほぼ前年並み、満開期は平年より5日、前年より2日早く、落花期は平年より6日、前年より2日早かった。4月の気温が高く推移したことから開花期は全体的に早まった。

#### エ 結実

「ふじ」の結実状況は、花数結実率、花そう結実率、中心花結実率ともに概ね平年並みであった。一方、低温降霜の被害が大きかった前年と比較するといずれの結実率も高かった。なお、開花が早まった地域では低温と降雨の影響で中心花結実率がやや低くなった。

なお、令和4年産「ふじ」の花芽率は75%、結実率は96%であり、作柄は平年作以上と判断された。また、5月21日に降雹があり、4月の凍霜害によるサビ果や奇形果、降雹による打撲痕のある果実が認められた。

#### オ 果実の生育

果実生育は、開花が早くまた5月までの気温が高く推移したため、6月1日時点の生育は平年および前年を上回った。しかしながら、7月の高温や8月の日照不足の影響により収穫期は概ね平年並みとなった。

収穫時の果実生育で、晩生種の「ふじ」は平年比100%の平年並みであり、中生種の「ジョナゴールド」は平年比106%とやや大きい状態で収穫期を迎えた。

#### カ 収穫期の果実品質

中生種の「ジョナゴールド」は、収穫期の果実品質で、糖度は概ね平年並み、硬度は平年より低く、デンプン指数は平年より高かった。9月の気温が高く推移したため、着色の遅れがみられ、収穫期は遅れた。

晩生種の「ふじ」は、収穫期の果実品質で、デンプン指数はやや高めだったものの、糖度は高く、硬度、蜜入りは概ね平年並みであった。着色も良好で収穫期は概ね平年並みとなった。

#### キ 気象災害

展葉期から開花始め期までの4月17日、20日に、寒気と放射冷却の影響により一部地域で最低気温が下がり、りんごではめしべなどの褐変がみられ、サビ果や奇形果の発生も認められた。

また、5月21日に大気の状態が不安定となり、奥州市において降雹が発生し、りんごへの打撲被害が確認された。

#### ク 病害虫の発生状況

病害では、黒星病、褐斑病の発生が多かった。黒星病は盛岡地域を中心に多く、褐斑病は盛岡地区以南での発生が目立った。

虫害では、キンモンホソガ、ハダニ類（リンゴハダニ）、アブラムシ類の発生が多かった。

#### ケ 作柄評価

作柄について、全農岩手県本部の取扱実績（令和5年2月末時点）から、数量で前年対比135%となり、前年を大きく上回った。

また、販売単価は前年比91%となった。全国的に生育が順調で入荷が多かったことが要因と考えられた。

## (2) ぶどう

#### ア 発芽期から展葉期

発芽期は4月26日で平年より6日、前年より2日早くなった。4月の気温が全体的に高く推移したことから生育は早まった。

展葉期は5月4日で平年より5日、前年より3日早くなった。4月下旬に低温が入ったことから、発芽期と比較してやや生育は停滞した。

#### イ 開花期から結実期

開花期は、平年より5日程度、前年より1日程度早くなった。5月の気温が高く推移したため、平年より生育が進んだものの、前年の5月も高温だったため、昨年とほぼ同程度となった。

一方、開花直前の6月上旬に気温が低く推移し、結実率は平年より低くなった。また、開花期間中に低温に遭遇した品種では、花ぶるい（結実不良）がみられた。

#### ウ 新梢伸長期

発芽、展葉が平年より早かったこと、6月下旬から7月初旬に気温が高く推移したことにより、新梢伸長は平年、前年より旺盛となった。さらに、降雨も概ね平年並みとなったため、葉枚数より新梢の伸びの方が旺盛でやや徒長的となった、

房長は平年、前年より大きく、果径は概ね平年並み、前年並みであった。

#### エ 収穫期の状況

7月は高温となったものの、8月の気温は低く推移し、また、8月は日照不足であったものの、着色始期は平年より6日早く、着色終期は8日早く、着色は概ね良好であった。

また、糖度は概ね平年並みであり、果実の熟度も概ね平年並みであった。なお、大粒系などの品種では糖度が低い傾向もみられた。

#### オ 病害虫の発生状況

8月の降雨の影響により、べと病、晩腐病など病害の発生が目立った。

#### カ 作柄評価について

生産量は、全農岩手県本部の取扱実績（令和4年12月末時点）から、前年比65%の出荷数量となった。これは6月上旬の低温による結実不良の発生や産直など自家販売の引き合いが強く、系統出荷が少なくなったためである。

販売単価については前年比122%であり、堅調な単価が維持された。

## 6 飼料作物

### (1) 牧草

#### ア 1 番草

4、5月は平均気温が高く推移し、生育ステージは平年並みからやや早く進んだが、収穫盛期である5月下旬から6月上旬にかけて雨天が続いたため、収穫遅延による品質の低下が懸念された。収量は、やや不良～平年並みであった。平均気温は、6月上旬は低い～かなり低くなった。降水量は4、5月が平年並み、5月下旬から6月上旬はかなり多くなった。

#### イ 2 番草

1番草の収穫遅延が影響し、2番草の収穫時期も遅れる傾向にあった。乾物収量は、やや良であった。7月上旬の平均気温は、高い～かなり高く、中下旬も高くなった。8月中旬は概ね平年並みで、内陸は8月中旬から低くなった。生育期間の降水量は、全体的に多くなった。

#### ウ 3 番草

収量は平年並み～やや良であった。1、2番草の収穫遅延により、3番草の収穫を断念した地域もみられた。9月中旬の平均気温はかなり高く、降水量は平年並みから少ない、日照は平年並みから多くなった。

### (2) 飼料用とうもろこし

#### ア 播種～生育・絹糸抽出期

播種は、4月下旬から開始された。播種盛期は5月下旬であったが、天候不良により6月にずれ込む事例もあった。播種直後の平均気温は低くなったが、6月中旬から7月は高く推移した。絹糸抽出期の7、8月は降水量が多く、先端不稔がみられた。

#### イ 収穫期

収穫は8月下旬より開始され、9月以降、収穫作業は概ね順調に進んだ。県北沿岸の収量は、やや不良。その他の地域は、平年並みであった。10月の平均気温は概ね平年並み、降水量は少なく、日照時間は概ね平年並みであった。